



学校法人藤田学園理事長
小野雄一郎

おの・ゆういちろう氏

1950年生まれ
1976年 名古屋大学医学部医学科卒業
1980年 名古屋大学大学院医学研究科博士課程修了
1993年 スウェーデン国立労働衛生研究所 客員教授
1996年 名古屋大学医学部 助教授
1997年 藤田保健衛生大学医学部
教授(公衆衛生学講座)
2008年 藤田保健衛生大学 医学部長
学校法人藤田学園評議員・理事
2011年 学校法人藤田学園理事長

50年の歴史を振り返り、新たな伝統を作っていくきたい

本学園創設者の藤田啓介総長は、生化学者として活躍した人物でした。医大の検査部に所属した際、医療スタッフ育成の必要性を痛感しました。「人生究極の事業は教育なり」という信念に達し、自ら准看護学校を設立するに至りました。その後、短大を設置し、衛生学部を擁する4年制大学を開学し、医学部開設も果たします。もともと大変な資産家でしたが、医学部開設に際しては、「全財産を投じた」と聞いています。入学式の挨拶など多くの記録が残っており、それを読み返すと、創設者の教育にかける並々ならぬ情熱が伝わり、今も胸が熱くなります。

私は16年ほど前、国立大学から藤田保健衛生大学に移りました。最も驚いたのは、教育にかける熱意の強さでした。気づけば先生方が、事あるごとに教育について熱く議論をしている。私立大学ならではの光景に映りました。「良き医療人」を育成するという使命を、教員一人ひとりが背負っている大学であることが一目瞭然で、その伝統は今日も色濃く継承されています。

先見の明があった「アセンブリ教育」

創設者は、医療分野における全人教育を実践したいという意志を持っていました。それをかたちにしたのが「アセンブリ教育」です。

アセンブリ教育とは、医学部と医療科学部と看護専門学校の学生が合同で学ぶカリキュラムのこと。将来、医師や看護師、臨床検査技師、理学療法士などになっていく学生が一堂に会して学ぶ場で、医療に関する講習を共に受講するほか、スポーツや文化、研究に関する班活動を1年間行っていきます。「チーム医療」の重要性が叫ばれる今、こうしたコンセプトは珍しくないかもしれませんが、これを学園創設間もない頃から行っていたという事実は、本学の先見の明の証であるように思います。

施設についても、最善の環境を用意していると自負

しております。2007年に新設した生涯教育研修センターは多彩な学習環境を整えており、全国に先駆けて設置したスキルスラボは約620㎡という広さで、シミュレーション機器による実技訓練を行えます。また、医学部5・6年生が利用できる「グループ学習室」も設置。各自の学習意欲が向上することで、医師国家試験の合格率が上昇するなどの効果が表れています。

本学園には愛知県豊田市、名古屋市、三重県津市に3つの教育病院があり、臨床・教育・研究の効果は絶大なものがあると考えています。特に、豊田市にある藤田保健衛生大学病院は、全国屈指の規模を誇ります。

「我ら、弱き人々への無限の同情心もて、片時も自己に驕(おご)ることなく医を行わん」との医療理念を掲げ、病める人々への限りない共感と、決して慢心することのない心のこもった医療を実践しています。最先端医療にも積極的に取り組んでおり、例えば、手術支援ロボット「ダヴィンチ」は2009年1月に導入して以降、手術が700件(2013年9月現在)を超えており、日本におけるロボット手術の普及・発展に寄与しています。また、2012年4月「ダヴィンチ低侵襲手術トレーニングセンター」を開設し、日本全国から多数の医師が研修に訪れています。救急医療、終末期医療に関しても高水準の医療を展開しており、教育にもフィードバックされています。

また2013年2月、本学園の強みを生かし、医療科学部と大学病院の協力により、「藤田保健衛生大学地域包括ケア中核センター」を設立しました。病院を有する大学としては全国初となります。

ご承知のように政府は2025年を目途に、地域包括ケアシステムの構築を目指しています。しかし、なかなか思うように進んでいません。そこで本学は地域に貢献するために当センターを設立しました。医療、介護の壁を取り払うほか、地域の医療機関や医師会などとの協力体制も整えます。本学学生の実習・研修施設と

いう役割も持たせ、そこで育った人が、あらためて地域の医療スタッフとして活躍できるようなサイクルを実現していきたいと考えています。

2つの研究所で超一流の研究を実践

本学は、「獨創一理」という建学の理念を掲げています。独創的に、ひとつの理(ことわり)を追求していくという創設者の覚悟が、この言葉に凝縮されています。超一流の研究を進めたいという強い思いが、現在も本学の研究体制を支え、高度な研究実績を生み出しているように思います。

本学には、「総合医科学研究所」と「藤田記念七栗研究所」という2つの研究所があります。総合医科学研究所は、遺伝子研究のもつ医学への強いインパクトを早くから察知し、1985年に研究所内に分子医学系研究部門を新設しました。現在は、分子遺伝学、医高分子学、遺伝子発現機構学、難病治療学、システム医科学の5基幹研究部門と、抗体プロジェクトの研究部門で構成されています。藤田記念七栗研究所は、もともとの生薬研究塾が発展し、現在は生化学部門とリハビリテーション部門の研究をしています。両研究所を合わせると、40人近い専任研究者を雇用しています。それくらい本学は研究を重視しているということです。

こうして本学園は50年間、良き医療人を育てる教育と、超一流を目指した研究を積み上げてまいりました。来年の創立50周年を記念し、本学園では『50年史』をまとめたいと考えています。圧倒的なカリスマ性を持った創設者のみならず、多くの先達が学園の発展に貢献してきました。いつ、誰が、何を考え、何をしてきたのか。それを記録に残し、寄与した方々の労苦を正當に評価する義務があると思っています。そのうえで、自らの言葉で未来の方針を書き記し、新たな決意を持って次の50年を切り拓いていきたい。それが我々の世代の大きな役割であると考えています。